

YOKOHAMA

# 横浜

情報は  
こちらへ

● 報道部 ☎045(227)0140  
☎045(227)0153

広告部 ☎045(227)0730  
出版部 ☎045(227)0808  
企画事業部 ☎045(227)0780  
販売局 ☎045(227)0700

かながわ人 @横浜

かながわ市民オンブズマン  
事務局長  
保坂 令子さん



## 市民の力で自治推進

「行政への要望を言いっ放して終わらせたくない」と、かながわ市民オンブズマンに加わった。「法律や情報公開制度に詳しい人材を擁するオンブズマンには、行政を変える力がある」と語る。

「開国博Y150住民訴訟」などに関わり、地元の鎌倉市でも積極的に活動。携帯電話中継基地局の周知を図る条例づくりを市に働き掛け、実現にこぎ着けた。

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故が発生。今こそ大切に思うことがある。「市民が力を持って、地方自治を進めていく。それが復興のキーワードでは」。

会社員から転身、女性真打ち

## 講演の魅力知って

来月 4日 市大OG田辺さん公演

横浜市立大学を卒業した女性講師、田辺一恵さん。

真打ちになって2年半、かつて隆盛を誇った講演の人氣復活を目指し古典に、創作にと活躍している。11月4日には横浜で「赤穂義士伝 殿中刃傷を披露する。学生時代、独文学を専攻し民間会社に勤めたが、30歳を過ぎて講演の世界に転身、12年間の下積みを経て真打ちに昇進した経歴の持ち主だ。

田辺さんは浜松市出身で、1984年に横浜市立大学文理学部を卒業。10年以上、民間会社でシステムエンジニアをしていたが、97年に故・田辺一鶴さんに入門、講師となり、2009年4月、真打ちに昇進した。

会社勤めを辞め、将来を思案していた時、たまたま東京・日本橋亭で講演を聴いたのが、この道に入ったきっかけ。学生時代は演劇部で、子どものころから声を出して本を読むのが大好きだった。着物も好きで、社員旅行にも着物で行ったほど。「着物を着て声を出せるかもしれない」と入門した。

得意な演目は、うずもれた偉人もの。郷土静岡県の人物や、二宮金次郎小田原編の講演も創作した。「講演は守備範囲が広い。ありとあらゆるものが題材になる」という。「講演自体が、リズム感など音楽的要素がある」とジャズのライブを組み込んだ講演会も催している。



古典に、創作にと活躍する田辺一恵さん

東京・上野広小路亭

# 市立小・中学25校29棟

「講演は落語に比べてメジャーではないが、堅苦しくなく面白い。そんな講演のよさを見いだしてほしい」と、人氣復活へ張り切っている。

11月4日の講演は横浜市内のホテルで開催の横浜市立大学同窓会で披露される。会費9千円。売り上げの一部は社会福祉のために神奈川県厚生文化事業団

に委託される。

問い合わせは、横浜市立

大学同窓会事務所 ☎045(681)6575。

「たまぐす」の苗木を手にする藤木さん(中央区)



## 名木が結ぶ「絆」

名勝復活へ売上金寄付

高田に「ありあけ」

岩手県陸前高田市の「一本松」と横浜開港資料館の「たまぐす」。大災害の

中で残った二つの樹木を仲立ちとする交流が、陸前高田の市民団体と横浜の菓子メーカーとの間で始まった。「絆」をテーマとした新たな洋菓子の売上金の一

部を、国指定名勝「高田松原」の復活のために追加寄付する態勢も整った。

市民団体「高田松原を守る会」と交流を始めたのは、菓子メーカー「プレシア」(横浜市港北区)傘下の「ありあけ」(同)。両社の藤木久三会長(69)は倒産した有明製菓から商標権を買取り、元従業員らと「ハーバー復活委員会」を設けて横浜銘菓「ハーバー」を復活したことで知られる。

藤木さんは旗艦店を2006年、横浜開港資料館の近くに開店した際に「たまぐす」のモニユメントを設置。その後、同館から苗木3株を譲り受けて育ててきた。東日本大震災の直後、新聞記事で守る会の存在を知り、ありあけとして4月から、陸前高田市を通じてハーバーの売上金の一部(年間約1千万円)を守る会の活動に寄付するプロジェクトを開始。今年5月には藤木さんが現地を訪れ、守る会副会長の小山芳弘さん(59)にたまぐすの苗木1株を贈って「復興」復活への思いを語り合った。

この思いが結実したのが、東北地方の食材の一部使い、ありあけ直営店で先